

旧日本史 B

(解答番号 ~)

第1問 次の文章は、高校生のリンさん、ミナミさん、レイカさんが、日本史の授業での馬に関するグループ発表の準備にあたって交わした会話である。この文章を読み、後の問い(問1～6)に答えよ。(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところがある。)(配点 18)

リン：馬は、人や物を運べるし、戦いや農業にも使えるから、日本史の中で大きな役割を果たしてきたよね。いつ頃から飼育されていたのかな。

ミナミ：馬とその飼育技術は4～5世紀頃に朝鮮半島から伝わったみたいだね。馬の飼育が定着していったことは、㉑ 当時の国際情勢とも関係しそうだ。

リン：私は古代の担当なので、律令国家の成立やその変質をうけて、㉒ 国家による馬の飼育や利用がどう変わったか調べたいな。

ミナミ：中世については、㉓ 馬が描かれた絵画から当時の社会のあり方についても分かるかもしれない。

レイカ：近世には、民間での馬の利用も前の時代より進んだようだね。私は、特に㉔ 馬を利用した輸送について興味がわいたな。

リン：そういえば、動物園で日本の在来馬を見たことがあるんだけど、私たちがイメージする馬と比べてだいぶ小さかったな。近代になってから㉕ 馬の改良や統制が行われるなかで、今の大きさの馬が一般化したらしいよ。

レイカ：馬について調べていくと、各時代の国家や社会の特徴が浮かび上がってくる気がするね。面白い発表になりそう！

問 1 下線部②に関連して、4世紀から6世紀にかけての倭国と朝鮮半島との関係に関する次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。

Ⅰ 加耶(伽耶・加羅)諸国が百済・新羅の支配下に入り、倭国の朝鮮半島への影響力が後退した。

Ⅱ 倭王武が中国南朝に朝貢し、朝鮮半島での立場を有利にする称号を求めた。

Ⅲ 百済と結んだ倭国が、好太王(広開土王)の率いる高句麗軍と交戦した。

① Ⅰ — Ⅱ — Ⅲ

② Ⅰ — Ⅲ — Ⅱ

③ Ⅱ — Ⅰ — Ⅲ

④ Ⅱ — Ⅲ — Ⅰ

⑤ Ⅲ — Ⅰ — Ⅱ

⑥ Ⅲ — Ⅱ — Ⅰ

旧日本史B

問 2 下線部①に関して、リンさんは古代の国家による馬の飼育と利用について、次の表にまとめた。後の史料 a ~ d は、いずれも表を作成する際に参照した史料の一部である。史料 a ~ d のうち、表中の Y の時期に対応するものの組合せとして正しいものを、後の①~④のうちから一つ選べ。 2

表

X 8世紀	Y 9~11世紀
<ul style="list-style-type: none"> ・ 諸国に牧が設置された(諸国牧)。 ・ 兵部省に属する兵馬司^{へいばし}という役所が、太政官を通じて牧と馬を数量的に把握した。 ・ 諸国牧の馬は主に地方の兵士が所属する軍事組織で活用されたと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諸国牧の多くは衰退した。 ・ 東海道と東山道に属する4国に設置された御牧^{みまき}(朝廷直属の牧)が重視されていた。 ・ 御牧の馬を天皇が観覧する儀式が行われ、年中行事として重視されていた。

史料

- a 諸国をして牧地を定め、牛馬を放たしむ。
- b 天皇、武徳殿^{ぶとくでん}に幸し^{みゆき}(注1)、信濃国の御馬を覧じ、親王^{い か}已下参議^{いじょう}已上に各一疋^{たま}を賜う。
- c 凡そ官私の馬牛帳は、年毎に朝集使^{ごと ちようしゆうし}(注2)にさずけて、太政官に送れ。
- d 凡そ官の牧馬帳は、甲斐国・信濃・上野^{もくげん}は牧監^{もくげん}(注3)にさずけ、武蔵国は別当^{べつとう}(注4)にさずけて、寮^{さう}(注5)にたてまつれ。

(注1) 武徳殿に幸し：大内裏^{だいでいり}の馬場に設けられた殿舎にお出ましになる。

(注2) 朝集使：国司が政務報告のために都に派遣した使者。

(注3) 牧監：特定の牧を管理する役人。

(注4) 別当：ここでは特定の牧を管理する役人。

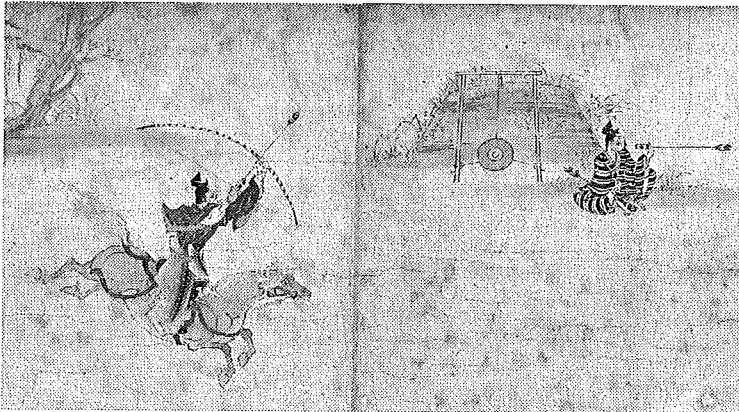
(注5) 寮：中央で馬を管理する役所である左馬寮^{さまりょう}と右馬寮^{うまりょう}のこと。

- ① a・c ② a・d ③ b・c ④ b・d

問 3 下線部㉔に関連して、次の図1・2はミナミさんが探してきた中世の馬が描かれた絵巻物の一部である。図1・2に関して述べた後の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

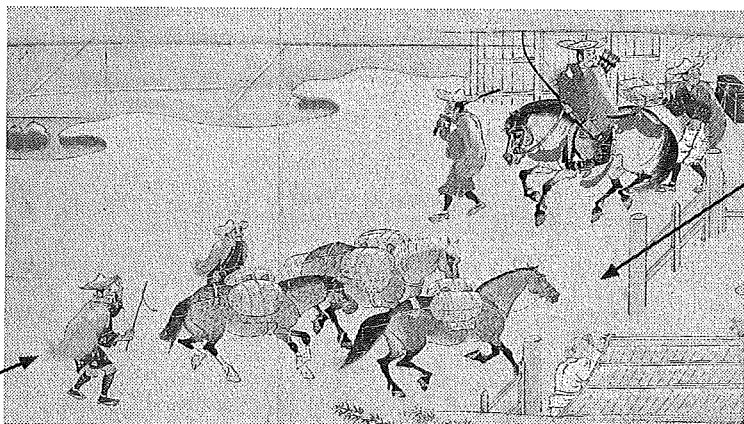
3

図1



(『男衾三郎絵巻』)

図2



おうさか
逢坂の関(山城国と近江国との間に設置された関)

馬借

(『石山寺縁起絵巻』)

X 図1は、馬上からの的に向けて射かける笠懸の様子を描いており、騎射が実戦を想定しない遊興として行われていた状況を示している。

Y 図2は、馬を利用して荷物を輸送する業者を描いており、地方と都との間で物資が盛んに運送されていた状況を示している。

① X 正 Y 正

② X 正 Y 誤

③ X 誤 Y 正

④ X 誤 Y 誤

旧日本史B

- 問 4 下線部㉔に関連して、レイカさんは近世の中馬^{ちゅうま}という民間輸送に関して、次のレポート1にまとめ、リンさん、ミナミさんとその背景について話し合った。レポート1に基づいた3人の会話の波線部について述べた文として正しいものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。

レポート1

中馬は、信濃国とその周辺で展開した民間の陸上運輸の方式である。終点まで人と馬を変えずに輸送する点で、宿駅を利用する輸送方法とは異なる。宿駅利用料がかからないなど費用を抑えられ、また荷物の積み替えの際の手間を省き、荷物の破損が少なくなることから、需要が高まっていった。そのため、幕府や藩などの公的輸送のみならず民間輸送も担っていた宿駅とたびたび争論を引き起こしたが、中馬で輸送に従事する人々の活動は幕府や藩への訴訟を通じて保障されていった。

会話

- リン：幕府が京都を起点とする五街道や脇街道を整備したので、全体的に流通が活発化していたんだと思う。
- レイカ：中馬は安価で効率的な輸送方法で、需要を拡大したので、宿駅と争論になったんだよね。
- ミナミ：中馬の活動は幕府や藩に保障されていたから、安心して全国的な物資輸送を担えるようになったんだろうね。

- ① リンさんのみ正しい。 ② レイカさんのみ正しい。
③ ミナミさんのみ正しい。 ④ リンさんとレイカさんのみ正しい。
⑤ リンさんとミナミさんのみ正しい。
⑥ レイカさんとミナミさんのみ正しい。

- 問 5 下線部㉕に関連して、3人は馬の改良と統制に関する次の年表とレポート2を作成した。レポート2中の空欄 に入る語句の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

年表

1906年	馬を改良する馬政局 <small>ばせいきよく</small> が設置され、後に陸軍省の管轄となった。
1906～23年	馬の改良計画が実施された。
1923年	馬政局が廃止され、馬の改良は農商務省の担当になった。
1936年	馬政局が再設置され、翌年から陸軍の軍人が統括した。

レポート2

対外戦争である などを通じて、在来馬の体格が劣っていることが明確に自覚され、戦争後すぐに馬の改良計画が開始された。これによって、在来馬は西洋馬の血統に置き換えられていった。

をうけて馬政局は一時的に廃止されたが、満州事変以後の軍用馬の需要増加の影響から復活し、再び陸軍が馬への関与を強めた。

その後、国家的な馬の統制はさらに進み、日中戦争開始から敗戦までの間に、国内の馬の約3分の1にあたる50～60万頭が戦場に動員された。

- | | | | | |
|---|---|---------|---|------------------|
| ① | ア | 第一次世界大戦 | イ | 国際協調の流れを受けた軍縮の風潮 |
| ② | ア | 第一次世界大戦 | イ | 昭和恐慌に伴う農村の荒廃 |
| ③ | ア | 日露戦争 | イ | 国際協調の流れを受けた軍縮の風潮 |
| ④ | ア | 日露戦争 | イ | 昭和恐慌に伴う農村の荒廃 |

問6 3人の発表が終わった後、クラス全体でその内容についてまとめた。日本列島における馬の歴史について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 平安時代には、軍団へ馬を供給していた諸国牧の役割が低下した。
- ② 承久の乱以降、足軽が主力となり、騎馬が戦闘で用いられなくなった。
- ③ 徳川綱吉への代替わりに際して出された武家諸法度では、初めて「文武弓馬の道」に習熟することが武士の義務とされた。
- ④ 日中戦争では、兵器の機械化が進み、馬の国家的統制は緩和された。

旧日本史B

第2問 次の文章A・Bは、古代日本と新羅など東アジアの国々との関係について高校生のヒロさんとカズさんが交わした会話である。この文章を読み、後の問い(問1～5)に答えよ。(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところがある。)(配点 16)

A

ヒロ：私の母の実家は埼玉県の新座市^{にいざ}にあるんだけど、新座って奈良時代には新羅郡(後の新座郡^{にいくら})に属していたみたいだね。

カズ：①新羅^{にいくら}って古代の朝鮮半島の国だよ。どうして、奈良時代の郡名に外国の名前が付いているんだろう？

ヒロ：そういえば、埼玉県には高麗郡^{こま}というところもあったね。高麗^{こま}って高句麗のことで、高句麗の滅亡後に日本に逃れてきた高句麗の人々が移住したところと聞いたことがあるよ。

カズ：インターネットで調べてみたら、高麗郡は奈良時代の初めにできたらしいね。新羅郡は、8世紀後半に設置されたと書いてあったよ。新羅は高句麗と違って、7世紀後半には滅亡しなかったよね。新羅郡も②新羅の人が移住^{こま}してできたのかな。郡が設置された③8世紀後半の東アジアの情勢も調べなきゃね。

問1 下線部①に関連して述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

7

- ① 新羅は朝鮮半島南西部に所在し、欽明天皇の時代に日本へ仏教をもたらした。
- ② 8世紀になると、日本の遣唐使は新羅の沿岸を避けて、航路を南路に変更した。
- ③ 新羅は唐と結んで高句麗を滅ぼし、その後に朝鮮半島を統一した。
- ④ 新羅は、唐の滅亡後、朝鮮半島に勃興した高麗^{こら}に滅ぼされた。

問 2 下線部①に関連する次の年表を参照して、新羅からの移住や新羅郡設置に関して述べた文として正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 8

年表

672～709年	日本と新羅との間で頻繁に外交使節が往来した。
687年	新羅から渡来した僧尼・百姓合わせて22人を武蔵国に移住させた。
690年	新羅から渡来した官人ら12人を武蔵国に移住させた。
733年	武蔵国埼玉郡の新羅人53人に金の姓を与えた。
753年	日本の遣新羅使が新羅によって追い返された。
754年	遣唐使が帰国し、唐での儀式の場で新羅と席次を争ったことを報告した。
758年	新羅から渡来した僧尼34人・男女40人を武蔵国に移住させ、新羅郡を設置した。
759年	藤原仲麻呂政権下で新羅征討計画が立てられた。
760年	新羅から渡来した131人を武蔵国に移住させた。

- ① 新羅との外交関係が途絶えた7世紀末には、新羅からの移民が武蔵国に移住させられていた。
- ② 新羅郡設置以前には、僧尼・官人のみが武蔵国に移住していた。
- ③ 新羅郡設置は、新羅と日本との関係が険悪化している時期に行われた。
- ④ 新羅郡設置以後には、渡来した新羅人の武蔵国への移住はなかった。

問 3 下線部③に関して述べた次の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 9

X 新羅は、交易継続のため、日本に従属するという立場を受け入れた。
 Y 渤海は、新羅と対抗関係にあり、たびたび使者を日本へ派遣した。

- | | |
|-----------|-----------|
| ① X 正 Y 正 | ② X 正 Y 誤 |
| ③ X 誤 Y 正 | ④ X 誤 Y 誤 |

旧日本史B

B

ヒロ：午前中、正倉院宝物の展覧会に行って来たんだけど、鳥毛立女屏風って素敵だったなあ。

カズ：鳥毛立女屏風って、唐風美女が描かれているけど、日本で作られたんだね。屏風の下貼り(裏打ち紙)には、当時の文書が使われているよ。

ヒロ：そうそう、展覧会の解説書にそんな説明があったね。「^{ばいしらぎぶつげ}買新羅物解」という、貴族たちが新羅の使節がもたらした物品を買う際に朝廷へ提出した文書だったよね。解説書に「買新羅物解」(史料1)が載っているよ。

カズ：この文書には天平勝宝4(752)年6月15日という日付があり、具体的な交易品の名称などが記されているね。

ヒロ：奈良時代には新羅と日本が交易していたことが分かったけど、平安時代にも交易関係は続いていたのかな。

カズ：平安時代の法令(史料2)を見つけたけど、これを見ると9世紀前半も新羅の人々との交易が盛んだったことが分かるね。アということが書いてあるけど、新羅のもたらした物品はすごい人気だったんだね。

ヒロ：だから、西海道を統括し、外交の窓口になっていたイが交易を管理して、価格などを統制していたんだね。

カズ：確かウには唐の商人が多く来航するようになったから、次第に新羅の商人は後退していったのかもしれないね。

史料1 「買新羅物解」

金 ^{すおう}蘇芳(注1) 小鏡

合わせて三種

^{じきもつ}直物(注2) ^{まわた}綿(注3)六百十斤

天平勝宝四年六月十五日

(『大日本古文書』)

(注1) 蘇芳：アジア南部に繁殖するマメ科植物で、赤色系染料や葉に利用された。

(注2) 直物：対価となるもの。

(注3) 綿：繭を引きのばして作ったわたのこと。

史料2 天長8(831)年9月7日付け太政官符

新羅人の交易品を検査したうえで受領すべき事。

聞いたところでは、愚かな人民が、私財をすべて投げ出して、値段が急騰しても交易品を競って買うため、家々の資産がほとんど尽きようとしている。こうした事態は実にと締りを行ってこなかった弊害である。宜しく西海道を統括する官司に下知して厳しく禁制を実施して、勝手に交易させてはならない。朝廷にとって必要な物品は都に進上させて、不要な物品は担当官司の監督の下で広く交易させなさい。その値段の高低は、すべて公定価格に従いなさい。

(『類聚三代格』大意)

問4 空欄 ~ に入る次の語句 a ~ f の組合せとして正しいものを、後の①~⑧のうちから一つ選べ。

- a 新羅からの物品を高い値段で買い、資産を減らした日本の人々がいた
- b 新羅からの物品を高い値段で売り、^{おおも}大儲けした日本の人々がいた
- c 大宰府
- d 太政官
- e 9世紀後半
- f 10世紀後半

- | | |
|------------------|------------------|
| ① アー a イー c ウー e | ② アー a イー c ウー f |
| ③ アー a イー d ウー e | ④ アー a イー d ウー f |
| ⑤ アー b イー c ウー e | ⑥ アー b イー c ウー f |
| ⑦ アー b イー d ウー e | ⑧ アー b イー d ウー f |

旧日本史B

- 問 5 カズさんは、新羅から日本への贈答品に関する次の表を作成した。史料1・2と表から読み取れる内容をまとめた後の文a～cについて述べた文として正しいものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 11

表 天武・持統朝における新羅から日本への贈答品の例

金属素材	金・銀・銅・鉄
工芸・加工品	錦・絹・布
動物	馬・駱駝 ^{らくだ}
その他	皮・薬物

(『日本書紀』により作成)

- a 7世紀に新羅からの贈答品であった金は、8世紀には交易でも入手していた。
- b 新羅からの贈答品・交易品は、新羅の産物だけで構成されていた。
- c 9世紀の新羅との交易では、朝廷が優先的に交易品を確保しようとしていた。

- ① aのみ正しい。 ② bのみ正しい。
- ③ cのみ正しい。 ④ aとbのみ正しい。
- ⑤ aとcのみ正しい。 ⑥ bとcのみ正しい。

第3問 ある博物館の「中世の石材利用と宗教」のコーナーに展示されていた次の解説パネルを読み、後の問い(問1～5)に答えよ。(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところがある。)(配点 16)

解説パネル

鎌倉時代の初め、源頼朝が平泉の毛越寺を模した永福寺ようふくじの建立に着手し、僧じようげん 静玄に、池と巨石を配して **ア** を表現した庭園作りを指揮させました。このように、㉔ 中世の建築・土木事業には宗教者が積極的に関与しました。

鎌倉時代には、石材を用いて仏像や供養塔を造ることが地方武士の間に広まりました。こうした石材利用が、仏教が地方に根付き、さらに庶民の間にも広まる要因となりました。例えば、㉕ 1319年に現在の奈良県奈良市柳生町にある巨岩に彫られた地蔵菩薩の摩崖石仏(写真)は、

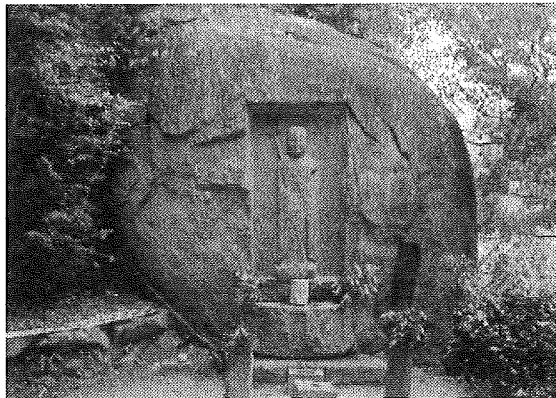


写真 地蔵菩薩摩崖石仏(抱瘡地蔵)

後に疫病を封じる「抱瘡ほうそう地蔵」と呼ばれるようになりました。

室町時代になると、幕府が **イ** を手厚く保護したことから、禅宗の思想を基調とする文化が発展しました。㉖ 足利義政は天下第一と言われた作庭師・善阿弥ら様々な職能者や芸能者を集め、新しい文化の潮流を作り出しました。また、㉗ 禅宗寺院を中心に石臼の使用が広まったことで、新しい食文化や農業が発展しました。

問1 空欄 **ア** **イ** に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **12**

- | | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|-----|---|---|------|---|-----|
| ① | ア | 曼荼羅 | イ | 曹洞宗 | ② | ア | 曼荼羅 | イ | 臨済宗 |
| ③ | ア | 極楽浄土 | イ | 曹洞宗 | ④ | ア | 極楽浄土 | イ | 臨済宗 |

旧日本史B

問 2 下線部㉔に関して述べた次の文 a ~ d について、正しいものの組合せを、後の①~④のうちから一つ選べ。 13

- a 重源は、陳和卿ら宋の工人を招いて、東大寺の再建を行った。
- b 栄西は、宋で学んだ禅の教えに基づき、龍安寺(竜安寺)に枯山水の庭園を作った。
- c 義堂周信は、足利尊氏の支援を受けて、京都に天龍寺(天竜寺)を建立した。
- d 忍性は、橋の修造や病人の救済などの土木・社会事業を実施した。

- ① a・c ② a・d ③ b・c ④ b・d

問 3 下線部㉕に関連して、写真の摩崖石仏の傍らに、次の史料1の文言が後になって刻まれた。史料1中の波線部に相当する語句を、後の史料2において示された下線部①~④のうちから一つ選べ。 14

史料1

正長元年ヨリサキ(注1)者、カンヘ四カンカウ(注2)ニ~~ニヲキメアルヘカラス~~。

(正長元年柳生徳政碑)

(注1) サキ：以前。

(注2) カンヘ四カンカウ：春日社領である神戸四か郷。

史料2

(正長元年九月)、一天下の土民蜂起す。①徳政と号し、酒屋・土倉・寺院等を②破却せしめ、^{ぞうもつ ほしいまま}雑物等 恣にこれを取り、③借錢等^{ことごと}悉くこれを破る。管領これを④成敗す。およそ亡国の基これに過ぐべからず。日本開白^{かいびやく}以来(注3)、土民蜂起これ初めなり。

(『大乘院日記目録』)

(注3) 開白以来：歴史が始まって以来。

問4 下線部◎に関して述べた次の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 15

X この人物が政治力を発揮できず、応仁の乱を回避することができなかったのは、室町幕府の将軍に直属軍や直轄領がなかったためである。

Y この人物の豊かな文化力の源泉の一つは、会合衆と呼ばれる、阿弥号をもつ職能者や芸能者を集めて、その活動を支援したことにある。

① X 正 Y 正

② X 正 Y 誤

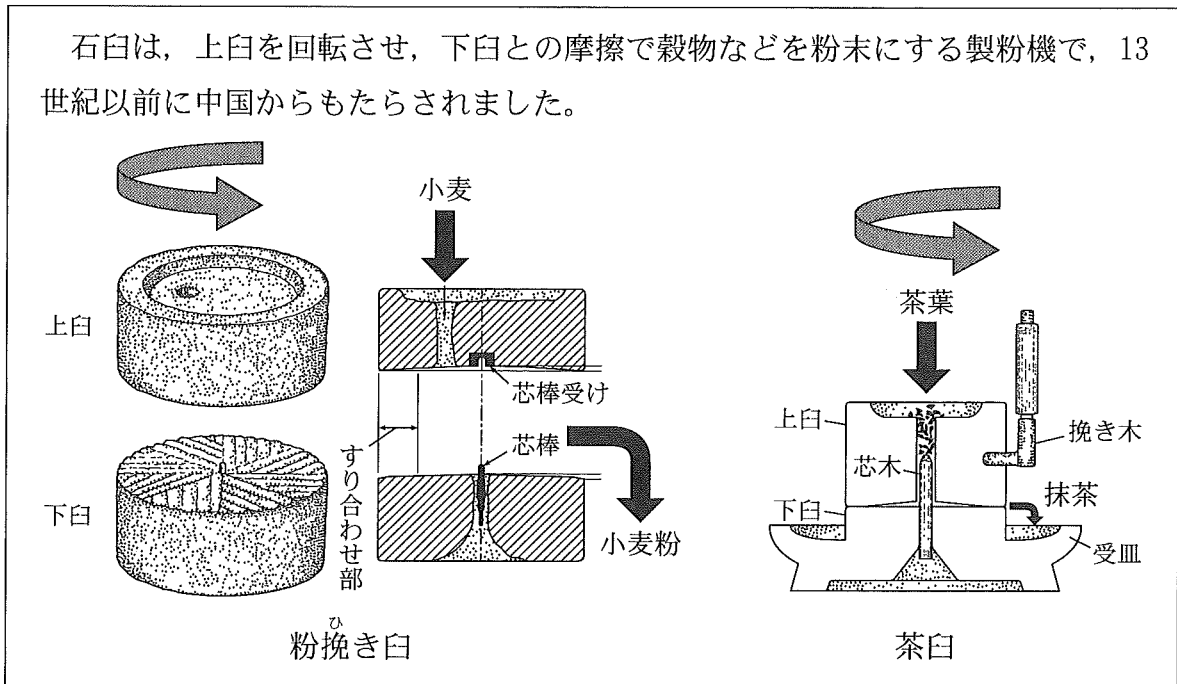
③ X 誤 Y 正

④ X 誤 Y 誤

旧日本史B

問 5 下線部①に関連して、博物館に展示されていた次の図と表1・2を見て、石臼の使用がもたらした文化について、高校生たちが話し合っていた。その際に交わされた、後の発言A～Cについて述べた文として正しいものを、後の①～⑧のうちから一つ選べ。 16

図 石臼の構造と機能



(三輪茂雄『臼』により作成)

表1 中世遺跡における石臼の出土状況

出土地	種類	13世紀	14世紀	15世紀	16世紀
中世大友府内町遺跡 (大分県)	粉挽き臼	0	3	4	134
	茶臼	0	2	1	95
草戸千軒町遺跡 (広島県)	粉挽き臼	0	1	4	13
	茶臼	0	2	1	2
鎌倉市内遺跡 (神奈川県)	粉挽き臼	0	11	14	8
	茶臼	0	3	11	2

(佐々木健策「挽き臼類の展開にみる中世」により作成)

(注) 数字は臼の部材点数の合計。

表2 16世紀の上野国の禅宗寺院・長楽寺で用いられた献上品とふるまい食

用途	品目
領主一門への献上品	銭 扇子 紙 酒 干柿 茶 抹茶 小麦粉 まん 饅(注)
来客へのふるまい食	茶 酒 麵

(『長楽寺永禄日記』により作成)

(注) 饅：小麦粉などの生地あんで餡を包んだ菓子。

発言

A：14世紀以降に粉挽き白の出土事例が認められることから、麦を裏作とする二毛作の普及との関係が考えられるね。

B：石臼が普及した16世紀になっても、小麦粉や抹茶、饅や麵は、石臼を用いて作る手間のかかる食物で、貴人への献上品や、ふるまい食に用いられたんだね。

C：鎌倉市内遺跡で石臼の出土事例が減少する16世紀には、鎌倉は関東地方の政治・経済の中心地ではなくなったね。

- | | |
|-------------|--------------|
| ① 三つとも正しい。 | ② Aのみ正しい。 |
| ③ Bのみ正しい。 | ④ Cのみ正しい。 |
| ⑤ AとBのみ正しい。 | ⑥ AとCのみ正しい。 |
| ⑦ BとCのみ正しい。 | ⑧ 三つとも誤っている。 |

旧日本史B

第4問 江戸時代の人命をめぐる幕府・諸藩の政治について述べた次の文章を読み、後の問い(問1～5)に答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところがある。)(配点 16)

寛永の飢饉で多くの餓死者や飢人^{きんにん}が出たことを受けて、幕府・諸藩は ようになった。幕政・藩政では、儒教に基づく徳による統治を理念とする 政治の進展が見られるようになった。

5代将軍徳川綱吉は仁政を実践しようとし、江戸の湯島に聖堂を建てて儒教を奨励する一方、仏教にも帰依して、㉔ 人を含めたあらゆる生物を対象とする生類憐みの令や、服忌令を出した。

こうして、幕府・諸藩の政治は人命の保障を強める方向に進んだが、㉕ 度重なる災害の発生によって多くの人命が失われ、政治・社会は動揺した。この状況を受けて、18世紀以降の幕府・諸藩は政治改革を実施して、子どもの養育制度を整え、㉖ 医療に関する政策を打ち出し、農村部の人口の維持・増加を図った。

18世紀末以降の欧米列強の接近は、幕府・諸藩の対外認識を深め、洋学の発展を促した。㉗ 洋学の発展によって、欧米諸国の医療制度や厚生施設に言及した書物が著され、欧米諸国の人命尊重の姿勢にも関心が向けられていった。

問1 空欄 に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- | | | | | |
|---|---|-----------------|---|----|
| ① | ア | 売買による土地集積を容認する | イ | 文治 |
| ② | ア | 売買による土地集積を容認する | イ | 武断 |
| ③ | ア | 本百姓経営の維持・安定を目指す | イ | 文治 |
| ④ | ア | 本百姓経営の維持・安定を目指す | イ | 武断 |

問 2 下線部④に関連して、次の史料1は、幕府が江戸の町に生類憐みの令の趣旨を言い渡したものである。下線部④と史料1に関して述べた後の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

18

史料1

一 生類憐みの儀、(中略)上より仰せ出され候は、人々仁心も出来候ようにと
 思し召され候ての儀に候ところに、うわべばかり守り候ように^{つかまつ}仕り候て、
 内心に^{れんびん}憐愍(注)の志うすき^{しかた}仕形にて、不届きに候。(中略)たびたび申し渡し
 候趣を相守り、人々、心より慈悲の志のおこり候ように仕るべし。

(『江戸町触集成』)

(注) 憐愍：哀れむこと、情けをかけること。

X 史料1によれば、幕府は、表面的・形式的な法令遵守ではなく、生類の命を慈しみ、大切に^{おぼ}する心を養うことを人々に求めていた。

Y 近親の死に際して喪に服する日数などを定めた服忌令により、それまで社会にあった死の^{けが}穢れを嫌う意識は、徐々に消滅していった。

① X 正 Y 正

② X 正 Y 誤

③ X 誤 Y 正

④ X 誤 Y 誤

旧日本史B

問 3 下線部⑤に関連して、近世の災害や飢饉に関する次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。

19

- Ⅰ 西日本一帯で起こった天候不順・虫害による凶作をきっかけに、大飢饉が発生して米価が高騰し、江戸で米問屋に対する打ちこわしが起こった。
- Ⅱ 浅間山の噴火に続いて数年に及ぶ大飢饉が発生した後、幕府や諸藩は、出稼ぎの制限や囲米による飢饉対策により農村復興を図った。
- Ⅲ 明暦の大火によって、江戸の市街に大きな被害が出て、江戸城の天守閣も焼失した。

- ① Ⅰ — Ⅱ — Ⅲ ② Ⅰ — Ⅲ — Ⅱ ③ Ⅱ — Ⅰ — Ⅲ
④ Ⅱ — Ⅲ — Ⅰ ⑤ Ⅲ — Ⅰ — Ⅱ ⑥ Ⅲ — Ⅱ — Ⅰ

問 4 下線部③に関連して、享保の改革で実施された医療や医学に関する政策に携わった人物について述べた次の文X・Yと、それに該当する後の語句a～dとの組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

20

- X この人物を中心に進められた都市政策のなかで、医療を受けられない貧民のための小石川養生所が設置された。
- Y この人物は、將軍の命を受けてオランダ語を学び、西洋医学などを受容するための基礎となる蘭学の興隆に寄与した。

a 大岡忠相 b 間部詮房 c 青木昆陽 d 田中丘隅

- ① X — a Y — c ② X — a Y — d
③ X — b Y — c ④ X — b Y — d

問 5 下線部①に関して、次の史料 2 は、熊本藩士の横井小楠^{しょうなん}が 1860 年に執筆した著作の中で、欧米諸国の政治や制度について言及した部分である。史料 2 と日本における欧米の文物の受容に関して述べた後の文 a ~ d について、最も適当なものの組合せを、後の①~④のうちから一つ選べ。 21

史料 2

アメリカにおいては初代大統領のワシントン以降、共和制による政治が行われている。アメリカの政治は、政治の方法から技芸や器械などに至るまで、およそ地球上で善美とされるものをすべて取り入れ、人民の生活を大事にしている。また、ロシアをはじめ多くの国々は、文武の学校、病院、孤児院、^{あろう}啞聾院(注 1)などを建設し、倫理に基づく政治と教育を人民のために行っている。このような政治と教育のあり方の多くは、三代の治教(注 2)に合致している。

(「国是三論」大意)

(注 1) 啞聾院：聴覚や発声に困難がある人々のための施設。

(注 2) 三代の治教：儒教の理想とする夏・殷・周の三代で統治の行き届いたとされる時代の政治と教育のこと。

- a 史料 2 によれば横井小楠は、人民の生活を大事にする欧米諸国の政治について、儒教の思想を取り入れることで実現できたと理解している。
- b 史料 2 によれば横井小楠は、政治や教育、病院などの厚生施設が充実した欧米諸国のあり様を、儒教の理想の治世と重ね合わせて理解している。
- c 朝廷の要望を受けて、幕府が欧米諸国との貿易を始めたことにより、幕府の欧米諸国の政治や制度に関する理解が進んだ。
- d 幕末にかけて、洋学に関する知識の必要性が高まったことを一つの契機として、幕府は江戸に蕃書調所を設置した。

- ① a・c ② a・d ③ b・c ④ b・d

旧日本史B

第5問 高校生のマサさんとミユさんは、東京都港区で「高輪築堤」^{たかなわ}と呼ばれる明治時代の鉄道遺跡が発見されたという新聞記事を読み、この遺跡から日本の近代化について考えることにした。次の会話を読み、後の問い(問1～4)に答えよ。(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところがある。)(配点 12)

マ サ：明治時代、東京の一部の区間では、海の浅瀬に盛り土をして石で固めた堤の上を蒸気車(蒸気機関車)が走ったらしいよ。

ミ ュ：政府で鉄道の開通を主導したのは、欧米技術の導入に努めた **ア** だね。

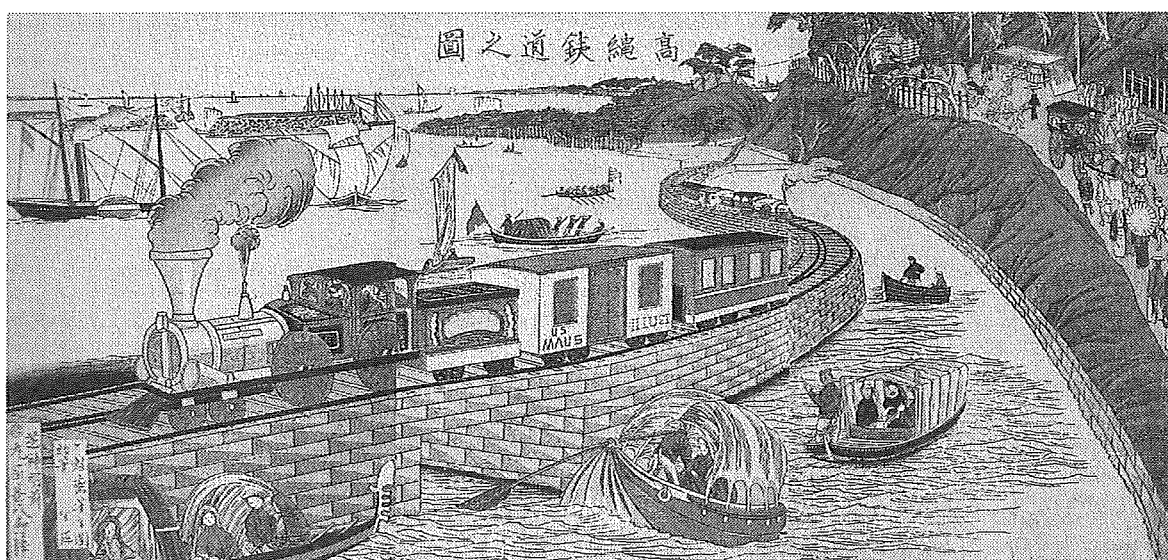
マ サ：最初に鉄道が開業したのは **イ** と横浜との間だよ。

ミ ュ：実際に鉄道が開通する前年に描かれた錦絵(図)があるんだ。㉠西洋文明を象徴する黒船なども描かれていて、時代の雰囲気分かるよね。

マ サ：鉄道や蒸気車の知識は、㉡欧米諸国との交流が始まった幕末には、すでに日本に入っていたと本で読んだよ。

ミ ュ：それにしても、高輪築堤のような遺跡は、世界的にも珍しいらしい。
㉢当時の技術や、日本の近代化のあり方を知る上で貴重な遺産だね。

図



(『高縄(高輪)鉄道之図』)

問 1 空欄 に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ア 工部省 イ 上野 ② ア 工部省 イ 新橋
 ③ ア 内務省 イ 上野 ④ ア 内務省 イ 新橋

問 2 下線部②に関連して、幕末期には、西洋式艦船を想定して「大船」という言葉が用いられた。大船に着目したマサさんとミユさんは、次の史料を読んだ。この史料に関して述べた後の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

史料 1853年に幕府が大名に対して出した法令

大船^{ちようじ}停止の御法令(注1)に候^{ところ}処、方今(注2)の時勢大船必要の儀につき、今より諸大名大船製造致し候儀、御免なされ候間、作用方ならびに船数共委細^{あい}相伺い、差^{さし}図を受くべき旨仰せ出され候。尤^{もつともみぎよう}右様御制度御変通遊ばされ候も、畢竟^{ひつきよう}(注3)御祖宗の御遺志御継述^{ごそそう}(注4)の思^{おぼしめし}召より仰せ出され候事に候間、邪宗門御制禁等の儀は、弥^{いよいよ}以て先規のごとく相守り、取締向き別して嚴重に相心得らるべく候。

(『幕末御触書集成』)

(注1) 大船停止の御法令：3代将軍が出した500石積以上の船の建造禁止令のこと。19世紀になると西洋式艦船の建造禁止令として理解されるようになった。

(注2) 方今：ただ今。 (注3) 畢竟：つまるところ。

(注4) 御祖宗の御遺志御継述：歴代将軍の方針を受け継ぐこと。

X 大名は幕府に断ることなく、西洋式艦船を製造できるようになった。

Y 幕府はこれまで禁止してきたキリスト教を、時勢に応じて解禁した。

- ① X 正 Y 正 ② X 正 Y 誤
 ③ X 誤 Y 正 ④ X 誤 Y 誤

旧日本史B

問 3 下線部㉔に関連して、幕末の日本と外国との関係に関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 24

- Ⅰ イギリス人殺傷をきっかけとして、薩摩藩とイギリスが戦争になった。
Ⅱ 幕府は、アメリカと協定関税などを定めた条約を締結し、続いてイギリスなど4か国とも同様の条約を締結した。
Ⅲ 幕府は、アメリカ船に薪水や食料を供給することなどを定めた条約を締結した。

- ① Ⅰ — Ⅱ — Ⅲ ② Ⅰ — Ⅲ — Ⅱ ③ Ⅱ — Ⅰ — Ⅲ
④ Ⅱ — Ⅲ — Ⅰ ⑤ Ⅲ — Ⅰ — Ⅱ ⑥ Ⅲ — Ⅱ — Ⅰ

問 4 下線部㉕に関連して、マサさんとミユさんは図書館で調べたことを、次のメモと表にまとめた。メモと表を踏まえて、明治期の状況に関して述べた文として最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 25

メモ

- ・高輪築堤の建設にあたっては、石垣の基礎として、胴木と呼ばれる丸太や松の杭くいが使用されるなど、江戸時代の埋立て・石垣造りの技術が用いられた。
- ・蒸気車の運転や検査はお雇い外国人が担当したが、1879年には日本人最初の機関士が誕生した。
- ・お雇い外国人数は1886年以降減少傾向が続き、1899年には内閣によって外国人雇い入れに関する手続きが廃止された。

表 職務別お雇い外国人の推移

(単位：人)

年次	学術教師	技術者	事務家	その他	合計
1872年	102(28%)	127(34%)	43(12%)	97(26%)	369(100%)
1873年	127(25%)	204(40%)	72(14%)	104(21%)	507(100%)
1874年	151(29%)	213(41%)	68(13%)	92(18%)	524(100%)
1875年	144(27%)	205(39%)	69(13%)	109(21%)	527(100%)
1876年	129(28%)	170(36%)	60(13%)	110(23%)	469(100%)
1877年	109(29%)	146(38%)	55(14%)	71(19%)	381(100%)
1878年	101(31%)	118(37%)	51(16%)	51(16%)	321(100%)
1879年	84(32%)	111(43%)	35(13%)	31(12%)	261(100%)
1880年	76(32%)	103(43%)	40(17%)	18(8%)	237(100%)
1881年	52(31%)	62(37%)	29(17%)	23(14%)	166(100%)
1882年	53(34%)	51(32%)	43(27%)	10(6%)	157(100%)
1883年	44(33%)	29(22%)	46(35%)	13(10%)	132(100%)
1884年	52(34%)	40(26%)	44(29%)	15(10%)	151(100%)
1885年	61(39%)	38(25%)	49(32%)	7(5%)	155(100%)

(梅溪昇『お雇い外国人』により作成)

(注) ()内の数値は、合計に対する割合で、小数点以下を四捨五入したため、数値の合計が100%にならない年次がある。

- ① 学術教師であったお雇い外国人の意向により、日本美術を除外した東京美術学校が設立された。
- ② メモによれば、日本の在来技術をいかして行われた工事により、高輪築堤が完成したことが分かる。
- ③ 表によれば、お雇い外国人の人数が最も多い時期には、学術教師の数が技術者の数よりも多くなっていることが分かる。
- ④ メモと表によれば、日本人最初の機関士が誕生した頃から、お雇い外国人に占める技術者の割合は上昇する傾向にあったことが分かる。

旧日本史B

第6問 高校生のトモさんは、近現代の日本の産業発展と環境問題について調査し、次のプリントA・Bを作成した。この文章を読み、後の問い(問1～7)に答えよ。(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところがある。)(配点 22)

A 近代における産業発展に関するプリント

- ・ ㉑ 明治期以降、産業発展のための基盤となる鉄道が整備された。
- ・ 江戸時代から作られていた生糸に関しては、明治期になって、官営の富岡製糸場などが設立され、 技術による増産が可能になった。
→特に明治初期の製糸業では、熱源として多くの薪や木炭が必要とされたため、木が乱伐されることもあった。
- ・ 紡績業では、第一国立銀行を設立した が中心となって大阪紡績会社を作り、大量生産を実現した。
→ ㉒ 紡績工場から大量の煙が排出され、各地で対応が必要になった。

問1 空欄 に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ア 座繰製糸 イ 岩崎弥太郎
- ② ア 座繰製糸 イ 渋沢栄一
- ③ ア 器械製糸 イ 岩崎弥太郎
- ④ ア 器械製糸 イ 渋沢栄一

問2 下線部㉑に関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。

- Ⅰ 官営の東海道線が全通した。
- Ⅱ 半官半民の南満州鉄道株式会社(満鉄)が設立された。
- Ⅲ 政府の保護と華族の出資によって日本鉄道会社が設立された。

- ① I — II — III ② I — III — II ③ II — I — III
 ④ II — III — I ⑤ III — I — II ⑥ III — II — I

問 3 下線部⑥に関連して、次の史料1に関して述べた後の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

28

史料1

昭和三(1928)年末の統計によりまして、大阪市内の主なる繊維工場(中略)二十二か所について調べてみました。それによるとすでに全部を電化しておりますのは十二あります。それから蒸気機関と電力装置とを併用しているのが八つ、(中略)この電化によりまして、事業者は自らの生産能率を高め、我々市民は煤煙ばいえん(注)から逃れて非常な便宜を得ている次第であります。

(『大大阪』1931年11月号)

(注) 煤煙：石炭を蒸気機関で燃焼させたときに出るすす けむり煤と煙。

X 史料1によれば、大阪市内の工場で電化が進んだことにより、生産能率が向上し、煤煙問題も緩和された。

Y 史料1が書かれた時期には、都市部を中心に電化が進み、テレビや電気洗濯機が普及した。

- ① X 正 Y 正 ② X 正 Y 誤
 ③ X 誤 Y 正 ④ X 誤 Y 誤

旧日本史B

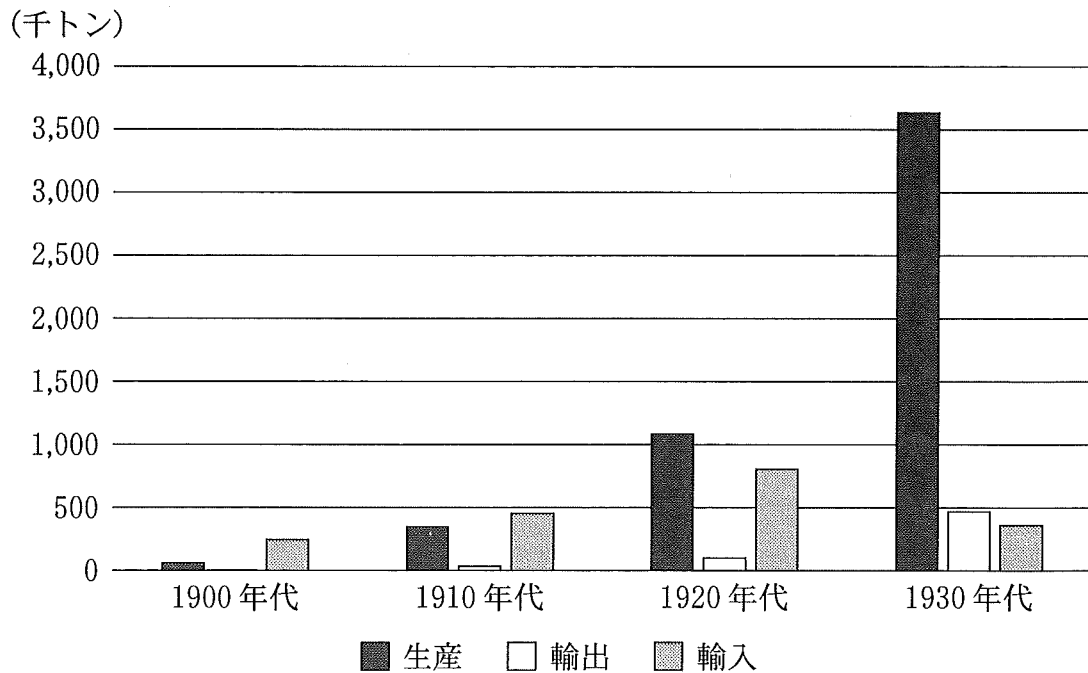
B 近現代における鉱工業の成長と環境問題に関するプリント

- ・ 軽工業だけでなく、㊟鉄鋼業などの重工業の発展も重要だった。
→工場からの排水や排煙により、健康被害が発生。
- ・ 鉱業においても近代技術が導入され、採掘量が増大した。
→㊤足尾銅山鉱毒事件などの公害問題が発生。
- ・ 高度経済成長期には、石油(石油化学)コンビナートが造成されるなど、重化学工業化が一層進展した。
→㊢水や大気の汚染が社会問題化し、各地で環境問題を意識した革新自治体が誕生。

問 4 下線部㊟に関連して、鋼材の生産量と輸出入量の推移を示した次のグラフに関して述べた文として誤っているものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

29

グラフ 鋼材の生産量と輸出入量の推移(10 か年平均)



(三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧 補訂版』により作成)

- ① グラフに示された全期間を通して、生産された鋼材は主に国内で利用されたと考えられる。
- ② 1900年代から1910年代における生産量の変化の背景には、造船業の発展や、それを促す海運業の成長があったと考えられる。
- ③ 1910年代から1920年代における輸入量の変化の背景には、金本位制に復帰したことがあったと考えられる。
- ④ 1920年代から1930年代における生産量の変化の背景には、対外関係の悪化に伴う軍需生産の拡大があったと考えられる。

問 5 下線部①に関連して、次の史料2を見つけたトモさんは、その内容をまとめた後のメモを作成した。メモに関して述べた文として最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 30

史料2 田中正造の天皇直訴状の一部(大意)

東京の北四十里(注1)にして足尾銅山あり、近年鉱業上の洋式器械の発達するに従いてその流毒益々多く、その採鉱製銅の際に生ずる所の毒水を溪流に注ぎ、渡良瀬川に流出して沿岸その害を被らざるなし。加うるに近年山林を乱伐し、水源を赤土となせるがゆえに、河の形が激変して洪水また水量の高まること数尺、毒流四方に氾濫し、魚族は死に、田園は荒廃し、数十万の人民は財産や職を失い、老幼は倒れ、壯者は他の土地に流離せり。

政府当局が天皇陛下の統治する土地と人とを悲境に陥らしめて省みるなきもの、臣(注2)の黙止すること能わざる所なり。政府当局をしてよくその責を尽くさしめねばならぬ。

(『田中正造之生涯』)

(注1) 里：約4 km。

(注2) 臣：ここでは田中正造のこと。

旧日本史B

メモ

＜鉍毒の原因＞：採鉍・製銅の際に生じる毒水→渡良瀬川への流出や，山林の乱伐を原因とする水害によって，鉍毒が蔓延した。

＜鉍毒の被害＞：魚類の死滅，田畑の荒廃→このままでは近隣住民の生活への影響が生じるであろうと予想している。

＜責任の所在＞：国土や人民の苦境を放置している政府→なんとかして政府に責任を果たさせなければならない。

- ① メモの＜鉍毒の原因＞に関する記述は，史料2を誤ってまとめている。
- ② メモの＜鉍毒の被害＞に関する記述は，史料2を誤ってまとめている。
- ③ メモの＜責任の所在＞に関する記述は，史料2を誤ってまとめている。
- ④ メモの記述は，史料2を正しくまとめている。

問6 下線部㊦について，次の新聞記事X・Yと，それに該当する後の語句a～dとの組合せとして正しいものを，後の①～④のうちから一つ選べ。 31

X いわゆる四大公害訴訟の中では，イタイイタイ病，水俣病につぐ三番目の一審判決となる。他の三件は被告が単一企業で，原因物質が重金属というケースであるのに比べて，この訴訟は，石油(石油化学)コンビナートの排煙による大気汚染にからんで複数企業を相手にしているのが特徴。

Y 琉球政府主席の屋良朝苗氏は美濃部亮吉氏の知事室を訪ね，約二十分間，就任のあいさつをかねて歓談した。美濃部知事は「革新系が政治を担当すると，住民はすぐにも生活がよくなるように考えがちだ。ことに沖縄では県民の不満が強いだけに大変でしょう」と革新知事として尋ねた。

a 三重県 b 富山県 c 大阪府 d 東京都

- | | | | |
|---------|-------|---------|-------|
| ① X — a | Y — c | ② X — a | Y — d |
| ③ X — b | Y — c | ④ X — b | Y — d |

問 7 トモさんはプリントA・Bを基に調べたことをまとめた。近現代の工業化と環境問題について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

32

- ① 明治初期における製糸業の主な燃料は石炭ではなかったため、自然環境と調和しながら発展した。
- ② 重工業の発展による大量生産の実現は、各地で煙害を引き起こした。
- ③ 高度経済成長期に公害への対策を求める運動が広がった。
- ④ 1960年代から1970年代前半にかけて、福祉・環境政策に積極的に取り組む革新自治体が各地で誕生した。